

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 28, No. 3 神奈川県立生命の星・地球博物館 Sept. 2022



受け継ぐ研究 60年目の再調査

宮城県仙台市のモミ イヌブナ林
2021年10月28日 石田祐子 撮影

いしだ ゆうこ
石田 祐子 (学芸員)

「^{しず}徐かなること林の^{ごと}如く…」と言われますが、一見静かに見える森林も絶えず動いています。特に、森林の樹木が何らかの理由で枯れた時には、動きが一気に大きくなり、空いた場所をめぐる樹木の陣取り合戦が起こります。

私たちの研究グループでは、仙台市にあるモミやイヌブナ、カエデの仲間などを主な構成種とする森林における長期間の継続調査から、森林を構成する種の世代交代の方法を明らかにする研究をしています。本研究は、故・

菊池多賀夫先生（元横浜国立大学環境情報研究院教授）が1961年に設置した調査区を引き継いでおり、2021年に60年目の再調査を行いました。

これまでの研究を通じて、森林の主な構成種は60年を通じて変わらなかった一方で、それぞれの種が次世代を残す戦略は異なることが分かってきました。長期間の継続調査では、当初は予想もしていなかったことが起こり得ますが、今後も100年先を目指して研究を続けていきたいと思っています。